

本校が目指す5年後の姿

1 本校の現状と課題

本校は羽後町唯一の高等学校であり、地域に根ざし、地域に支えられながら教育活動を行っている。令和元年度入学生から、2年次以降、生活文化系、ビジネス系の2編成とし、家庭科目、商業科目に特化した教育課程としている。生活文化系では、調理・栄養・福祉・保育・被服製作に関する知識と技術を体験的に身に付け、地域の方との協働学習やコミュニケーション能力などの社会人としての基礎力を育てている。ビジネス系では、情報処理に関する基本的な考え、技術を身に付け、社会人として必要なコミュニケーション能力の育成、ビジネスマナーの習得を図っている。また、「羽後学」等のふるさと教育・地域連携学習を通して、地元理解を深め、地元へ貢献する人材を輩出している。

一方、生徒の学力には課題も多く、一人一人によりそい、基礎・基本を身に付けさせる必要がある。生徒の多様な志望進路を実現させるための学力の向上とともに、地域の次代を担うたくましい青少年を育成していく。

2 学校を取り巻く将来状況の予測

県南地域の児童、生徒の減少が著しく、さらに湯沢雄勝地区においては、令和7年3月の中学校卒業者数は380人(平成27年3月比-202人)の予測である。令和2年度入学生から定員を70名とし、将来的にも2クラスを維持できるように教育活動の充実を図る必要がある。

3 目指す方向や学校像

校訓「精進努力」…「地域に開かれ、地域に信頼される学校、小さくとも温もりのある学校として、心の教育とキャリア教育を充実させ、自己目標の達成と地域貢献に精進努力する生徒を育てる」

教育目標「21世紀をより善く生きる、心豊かで有為な人材の育成に努める」

重点目標

- (1) 学校の活力維持…生徒数を確保し、学校全体の活力を高める
- (2) 教育力の提供…地域の高校としての教育力を地域の小中学校に提供する
- (3) 地域との連携…地域の教育資源を有効に活用し、伝統文化の尊重と継続に努める。

4 5年間で達成を目指す具体的目標

(1) 進路指導の充実

- ①地元就職の促進…就職希望者の80%以上を目指す。
 - ・インターンシップを実施し、地元企業の良さを再確認させ、働くことの意義や職業についての理解を深める。(2年生)
 - ・職場見学を実施し、地元優良企業の存在を認識させる。(1年生)
 - ・進学者に対し、卒業後県内で就職することを視野に入れたキャリア教育を推進する。
- ②多様な進学希望の実現…学び直しと自発的な学びのための環境を整備する。
 - ・学習支援サービスを導入し、基礎基本の定着を図る。(1・2年生)
 - ・国際教養大学や慶應義塾大学の学生との交流や大学見学などを通して、自己の進路

を見つめ直す機会を増やす。

- ・タイ短期留学の実施や羽後町への留学生との交流を通して、グローバルな視点で考える力を養う。

(2) 部活動の活性化

- ・運動部では、中学校と連携した部活動を実践するとともに、外部コーチによる指導等も加えて、全国大会出場を目指す。
- ・文化部では、外部コーチ等の地域の教育力を活用し、全国大会出場を目指す。

(3) 地域の小学校や中学校との連携

- ・ワクワク理科実験教室(小学5・6年生、中学1年生対象)を実施する。
- ・金融経済教育による小学校への出前講座を実施する。
- ・羽後中学校との連携による授業研修会を実施する。

(4) 地域に貢献できるボランティア活動

- ・環境美化活動(全校生徒)
- ・「水源の森守り育て隊」(森づくり県民提案事業)
- ・薬物乱用防止街頭キャンペーン(ボランティア部)
- ・献血ボランティア(ボランティア部)
- ・社会福祉施設等での芸能披露(郷土芸能部)
- ・羽後町の事業への参加(生徒会、ボランティア部)

(5) ふるさと教育「羽後学」の実践

総合的な学習(探究)の時間で、1・2年生がふるさと教育「羽後学」を実施し、地元の良さを再認識し、将来にわたるライフプランを考えさせ、地域の発展に貢献する姿勢と態度を育成する。また、「羽後学」による地域との協働経験によって、社会に役立つスキルを身に付ける。

